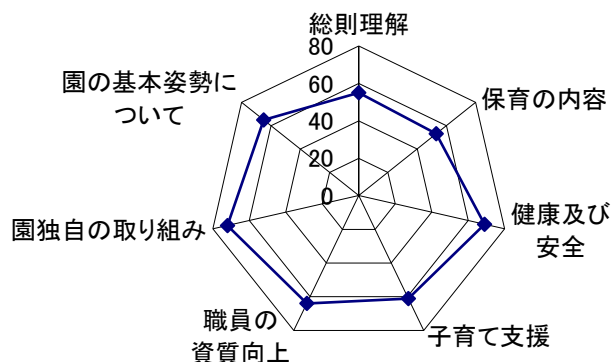


## 令和5年度自園評価結果

### 【項目別取り組みの達成度(%)】

	総則理解	保育の内容	健康及び安全	子育て支援	職員の資質向上	園独自の取り組み	園の基本姿勢について
R4 年度	50	46	56	42	45	54	59
R5 年度	55	53	69	61	64	72	65



### 【評価・分析 ～自園の強み、弱みの把握とその要因～】

前年度より全ての項目において達成度が上がった点は、とても良かったと言える。

「健康及び安全」「子育て支援」「職員の資質向上」「園独自の取り組み」は大幅に達成度が上がっており、保育士一人ひとりの意識向上の結果ではないかと考えられる。

「健康及び安全」は、従前から比較的高い達成度ではあったが、5年度はニュース等で報道された事故などを受け、考える機会が増えたことから更に保育士の意識が高まった。毎月の職員会で危機管理マニュアルの読み合わせを行い、けがの報告書や登降園の管理の見直し、保育中の職員の配置も改善させたりした。自園における危険を認識することで、安全に遊ぶことのできる環境に近づけたのではないと思う。

「子育て支援」では、保護者との相互理解を図るため、連絡ノートの書き方を工夫し、研修にも取り入れることで、どんな事柄をどのように伝えることが望ましいのかを考える機会となった。コロナが5類に分類され、保護者とコミュニケーションを取る機会が増えたこともこの結果に繋がった。

「職員の資質向上」では、昨年度から行っている不適切保育に関する研修を継続し、また、キャリアアップ研修を受けた専門リーダーが研修内容を職場に還元していった。研修内容をただ他の職員に羅列して伝えるのではなく、研修を受けた保育士自らが必要だと感じた事柄をテーマに決め、資料を作成し講義する形で内容の浸透を図った。

「園独自の取り組み」は、野菜の種まきから始めるクッキング、かみかみ通信簿、給食室とのきめ細やかな連携による食育活動と器械運動が、手を抜くことなく継続している。畑での収穫やクッキングは子ども達が目を輝かせて取り組む活動であり、食への興味関心に直結するものと感じる。給食室との連携により、一人一人に見合った食事内容や量についてが共有されている。器械運動は、園独自のプログラムを目安にして遊びの中で実践し、身のこなしの豊かな子どもの育成に取り組んでいる。運動会は、その積み重ねの発表の場として子ども達の励みになっている。

一方、「保育の内容」は、達成度は若干上がったものの、最も弱い分野として挙げた。指導計画の振り返りの場を設け、ねらい、内容、子どもへの関わり方、子ども達の主体性を尊重していたか等、共通認識、共通理解をし保育を進めているが、保育指針の内容をより深く考察し、より良い指導計画を立てて行きたいという保育士の願いが浮き彫りとなったのではないかと考える。

### 【具体的な改善策】

- ・保育指針を職員間で読み合ったり、クラスの問題を他のクラスの担任にアドバイスしてもらったり、職員間で高め合う時間や場を設ける。
- ・子ども達がより健やかに過ごせ、生き生きと活動できる室内、戸外環境づくりを考える。